

新たなことやってみよう！

～挑戦力が未来を拓く鍵～



『かつてない**困難**からは、かつてない「**革新**」が生まれ、
かつてない「**革新**」からは、かつてない「**飛躍**」が生まれる。』 松下幸之助

☆持続可能（永続） → （条件） → 利益を生み出す

↑↓

☞（新たな価値観）環境の変化への対応 ← 今まで以上の情報と知恵

❖ 新しいことを考え出す(既成概念・過去の囚われからの脱却)人の時

↓ ☆ばか者 若者 よそ者（違う視点・意見）

今までにないモノ（新たな魅力）の創出・提案 → 差別化 差異化

↑

☆ 人財育成 技術力 商品開発力 情報力 超プロになる ← 人も上質化

（品性）

② 『「イノベーションの父と称せられた経済学者・シュンペーターは、企業家精神を「変化と冒険、困難を好み、新結合を遂行する行為」ととなえ、「創造的破壊」を唱えました。そして、この創造的破壊は、新しい生産物（製品）、新しい生産方法（技術）、新しい資源と材料（原料）、新しい市場、新しい組織を開発し、導入することによって生み出され、その源泉は既存の物事を新しく組み合わせていく「新結合」にあると述べています。現代のような成熟した社会においては、イノベーションは不可欠であり、特にモノづくりに携わる企業には、「つくる力」として企業家精神の発揮が望まれます。』

（徳づくりの経営P32～33）参照



☆ 革新に向き合うため、まず根底にある「心」に注目する。

やる気のスイッチ ON → 新たなものへの挑戦 活性化 試行錯誤（錬金術）

脳は明るい未来を想像して進むと潜在意識の扉を開けて無限の力を引き出す

- ① 「幸福感」を重視する → 幸福感が高い人ほど創造性が高く思いやりがあり、離職率も低いという研究結果があります。まずは、今あることに感謝することから始まり、新たなことへのチャレンジをワクワクしながら、試みることです。
- ② 環境を整える → 働く人が幸福感(やりがい感・ワクワク感)を持てるように、職場の環境を整えることも革新を図るために必要なことです。機械化やIT機器等の活用できる環境の整備し、新たなことを考えられできる時間も確保する。

「三人寄れば文殊の知恵」 イノベーションのために大事なものは、協力して創造する「協創」。アイデアが出ない人は、アイデアが出る人を連れてきて、3人で考えてみよう。

☆『善因善果』 良い心遣いと行いが品性を高め、良い結果を得る。

『動機と目的と方法と誠を悉(つ)くす』 (最高道徳の格言 P66)
その動機・目的は善であるか。その方法は時代や時機、場所や場合に適っているか。すべてにおいて至誠一貫、何より相手を慮って。

- ⑥ 「魂・生命が入り込むことによって高い評価を得ている商品・サービスは同業者に真似されることはなく、強い独自性や個性を持つことになります。同業者が真似しようとして、いかに分解、分析、調査をしても、魂や生命は見つからないからです。肉眼では見えないものであるためか、魂は深いところに入り込みやすい性質があるようです。また、作り手にとっても、他人からは見えない部分の方が自分の魂を入れ込みやすいようです、結局、製品の外見上の真似はできても、内に潜む精神・道徳心の真似はできないということであり、したがって魂・生命を入れ込むことは究極の差異化戦略となります。」 (「道経 一体経営原論 P375」)